



道南エリア
奥尻町

島の漁業を守り育てていきたい

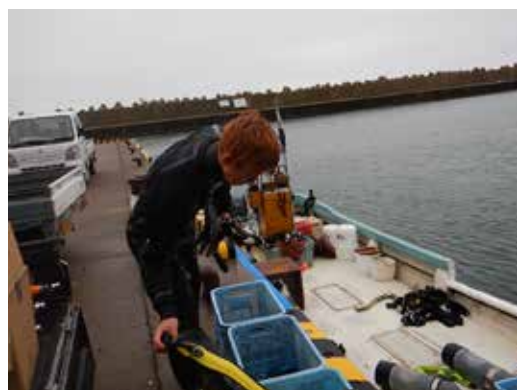
高校卒業後、親の反対を押し切り漁師になった彼。カラオケもゲームセンターもない島で、唯一にして最大の楽しみが海で遊ぶことだったという、最年少漁師が目指す島の漁業の未来とは？

プロフィール

名前 小濱 梨玖 年齢 19

前職 高校新卒で就業

以前の居住地 奥尻町



新規就業を考えたきっかけから実行までのプロセス

父方の祖父が漁師で幼い頃から漁を手伝って育つ▶中学生の頃から自分もこの島で漁師になりたいと思うようになる▶漁師とは違う道に進んだ父からは反対されたが意思を貫き説得する▶ひやま漁業協同組合の組合員資格取得

現在の仕事内容

奥尻潜水部会に所属してから、まだ数ヶ月の新米漁師です。酸素ボンベを背負って海に潜り、ウニやアワビ、ツブ、ホヤなどを採取する「潜水器漁業」を中心に営んでいます。部会では漁獲物を自分たちの手で加工して製品化しており、ネット販売のサイト運営も担当しています。毎朝4時に起き、親方や先輩漁師よりも早く出勤して準備をするところから1日が始まり、沖に出て戻ってから夕方にもまた翌日の準備をして1日が終わります。



仕事のやりがいや魅力

部会ではウニをただ採るだけでなく、餌となる昆布が豊富な場所へウニを移植して、早期に身入りさせる取り組みを行っています。そういった知恵と工夫が主力商品である無菌塩水パック「うに〇(まる)」の安定生産につながっているのも漁業の面白いところです。他にもホヤやメカブなどそれまで未利用だった資源を活用したヒット商品が生まれています。この仕事で一番嬉しいのはやっぱり、民宿やお祭りなどで自分の獲った海産物を食べた方から「美味しい！」とってもらえること。ネット通販でリピート注文をいただいたり、感想のメッセージをいただいたりするのも励みになります。



現在の暮らしや地域との交流

漁師になった今でも趣味は変わらず釣りはです。陸からのルアー釣りは仕事とはまったく違う面白さがあります。最近仕事に使う軽トラックの内装にも凝っています。

今後の目標

目標は腕の良い漁師になることです。腕の良い漁師とは、漁業の技術だけでなく、船の整備や安全への配慮なども完璧な漁師のこと。そして高齢化が進む中、島の漁業を守っていくために天然資源の維持と6次産業化の発展にも取り組んでいきます。



これから新規就業を目指す方へ

漁師の世界は体力的に厳しいですし、常に危険と隣り合わせですが毎日が楽しいです。親方や先輩には見た目が強面な方が多いですが、本当は温かい人ばかり。まずは奥尻島に一度遊びに来てください。